

■（１６７）再生する被災市街地は生活スタイルを変えるか

「２００メートル離れた場所なら車で行く」。被災地・岩手県釜石市の市街地をどう再生させるかを検討する会議で、土地柄をそう表現されて、全メンバーが苦笑いした。人々が回遊する空間を作りたいといいながら、駐車場の配置に話が展開しようとした時だった。

言われてみれば確かにそうだ。ほとんどの店は駐車場完備で、道を歩く人は少ない。私も自ら車を運転して取材に向かう。電車やバスの時刻を気にせずに、自由に動き回ることができる。カメラやノートパソコンなどの必需品を持ち運ぶにも便利だ。赴任して２カ月近くで、すっかり地元スタイルに慣れてしまった。

東京にいた時は、健康管理のために毎朝の通勤時、わざと遠い駅まで約４０分歩いてから電車に乗っていた。それがすっかり歩かなくなっている。岩手県の被災地はリアス地形で背後に山が迫る。小高い丘の上にある公園まで約２００段の階段を登ってみたら、途中で３回休み、息を整えてしまった。

冒頭の会議の続きの説明は、「駅から商業ゾーンまで８００メートル。東京駅の中を歩く程度の距離ですよ」。仮設住宅にこもる高齢者も多い。復興は生活スタイルも変えられるか。（山）